

水産技術センター・研究課題事前評価表
水産技術センター評価委員会（2009. 8. 21）

試験・研究課題名： 山梨県産アユ種苗特性評価試験

大課題名： 養殖漁業の振興

小課題名： 養殖効率の向上

細目課題名： 山梨県産アユ種苗特性評価試験

担当者名： 研究員 三浦 正之

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5 / 5	県内のアユ種苗放流は人工産に頼らざるを得ない。この中で、人工アユの質向上については遊魚者のみならず、漁協にも求められており、ニーズは高い。
2 課題の新規性、独創性	4.5 / 5	研究機関が種苗生産の大半を担っているという点で、他県に類似した例はなく、課題の新規性は高い。
3 目的・内容の整合性、妥当性	5 / 5	冷水病が発症する現状では、冷水病フリーの種苗の質向上が不可欠であり、目的・内容ともに妥当である。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4.5 / 5	研究手法も妥当であるが、結果によっては異なる環境での調査の実施も検討した方が望ましい。
5 成果の期待度	5 / 5	大いに期待できる。
総合評価	4.8 / 5	現在保有している2系統の有効活用に加え、将来の系統管理にも繋がる研究である。この成果をもとに他県に先駆けて、新たな資源管理のリーダーシップをとっていただきたい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

○研究結果によっては、異なった場所・環境での調査実施も検討していく。
○今後、試験結果をもとに、より品質の良い放流種苗を生産・供給し、各漁協の放流指針に活かしていきたい。